

【B4】 InterBaseテクニカルセッション

「InterBaseセキュリティパワーアップ」 セキュリティ改善のコツとツール

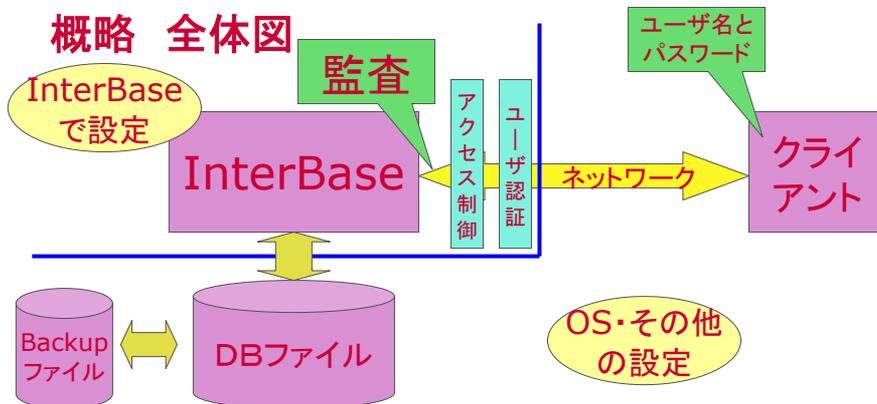


キムラデービー
代表
木村明治(きむらめいじ)
<http://kimuradb.com>

アジェンダ

- DBセキュリティとは？
- InterBase本体が持つセキュリティ機能
- 通信経路の暗号化
- 格納データの暗号化

DBセキュリティとは？



InterBase本体が持つセキュリティ機能

基本機能のおさらい

- Grant/Revoke
- User/User Role
- DB alias
- ibconfig

GRANT文

GRANT *privileges*

ON [TABLE] {*tablename* | *viewname*}

TO {*object*|*userlist* [WITH GRANT
OPTION]|GROUP *UNIX_group*}

基本は、WITH GRANTするかどうか。
権限剥奪はREVOKE文で、おこなう。



USER ROLE

InterBase 5.xから

USER ROLEの機能があり！

CREATE ROLE FULL_ACCESS;

GRANT ALL ON TEST_SCORES TO
FULL_ACCESS;

GRANT FULL_ACCESS TO BJONES;



USER ROLE

ただ、GRANTしただけ

では使えない！ → 接続時に指定する必要がある。

SQL>connect tempemployee.gdb user bjones password bjones

role full_access;

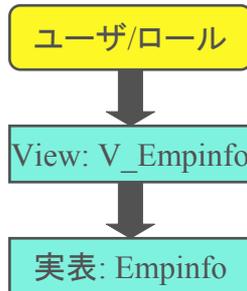
Database: tempemployee.gdb, User: bjones, Role: full_access



Viewを使ったアクセス制限

- 表に直接アクセスさせるのではなく、Viewに必要最小限の情報だけを与える。
 - SELECT文でのカラム
 - WHERE句での条件指定
 - WITH CHECKオプションによる、範囲外へのINSERT, UPDATEの抑止

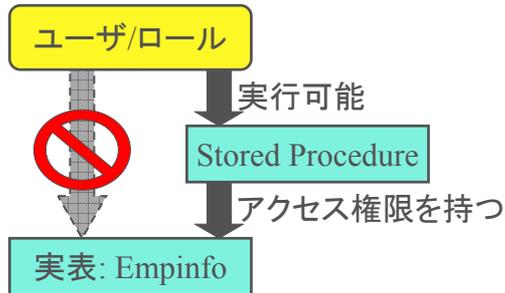
Viewを使ったアクセス制限



SPを使ったアクセス制限

- SP(Stored Procedure)を使う。
- データへのアクセスをSP経由だけにして、アクセス制限を行う。
- Viewに似ているが、さらにフレキシブルなものにできる。
- トリガによる監査はUPDATE/INSERT/DELETEのみになるが、SELECTによる監査も可能になる。

SPを使ったアクセス制限



DB alias

- InterBase 7.5以降で追加。
- Gsecコマンドで、データベースに別名を付けることができる。
- 以下のような利点あり
 - 接続文字列にデータベースフルパス指定なしでよい。
 - Unix, Windowsのパス区切りをクライアント側で意識する必要がない。
- <http://dn.codegear.com/jp/article/37600>

ibconfig

- #EXTERNAL_FILE_DIRECTORY
 - ## If your external files are not in <interbase_home>/ext,
 - ## specify their location here. For security reasons, do not
 - ## put other files in this directory.
- #EXTERNAL_FUNCTION_DIRECTORY
 - ## If your UDF library is not in <interbase_home>/UDF, then specify
 - ## the location of the library here. For security reasons, do not
 - ## put other files in this directory.

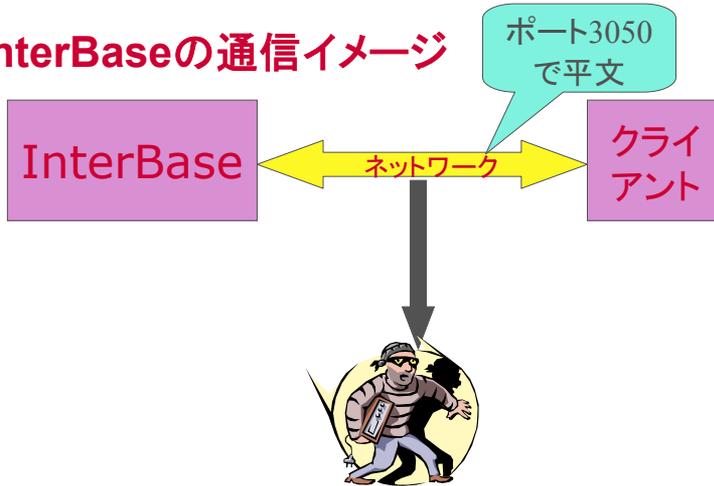
その他のTips

- SYSDBAを使わないようにしましょう！
 - データベースをSYSDBA以外のユーザーで作る。
 - 一部ツールなどでは問題が起こる可能性あり。
- パスワードを変更しよう！
 - ‘masterkey’を使わないように。
- クライアントにパスワードを平文で格納しないようにしましょう！
 - 付箋でモニターにパスワード張っているのとおなじ。

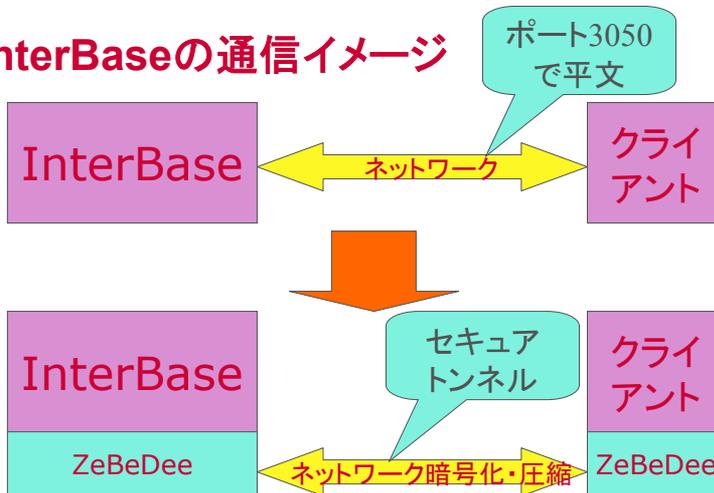
Memo & Demo

通信経路の暗号化

InterBaseの通信イメージ



InterBaseの通信イメージ



通信経路の暗号化

- ZeDeBee
 - <http://www.winton.org.uk/zebedee/>
 - <http://www.linux.or.jp/JM/html/zebedee/zebedee.pod.html>
- 暗号化とTCP/IPの圧縮
 - Zlib による圧縮
 - Blowfish による暗号化
 - Diffie-Hellman による認証

シンプルな設定

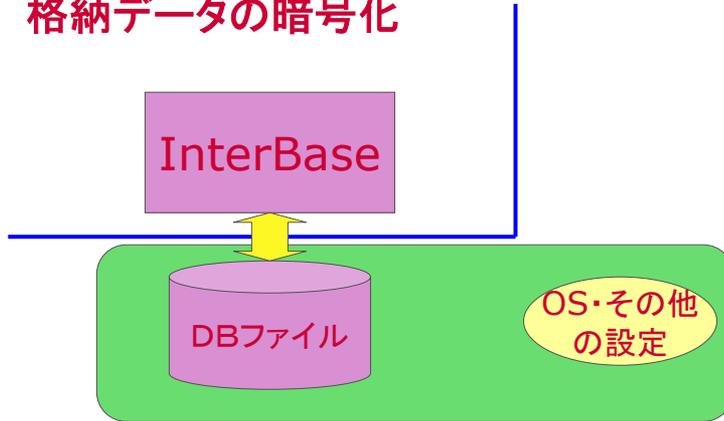
- ZeBeDeeサーバー側
 - Zebedee -s localhost:3050
- クライアント側(kimuradb.comをサーバ名とする)
 - Zebedee 3051:kimuradb.com:3050
- 接続文字列
 - Localhost/3051:データベースパス名(or DB Alias)

複雑な設定 & more...

- サーバサイド、クライアントサイドで、設定ファイルを作成。
 - さらに詳細な設定が可能。

格納データの暗号化

格納データの暗号化

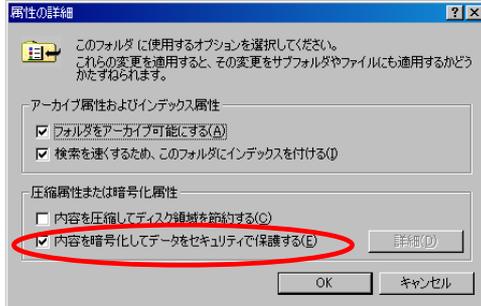


データファイルの暗号化

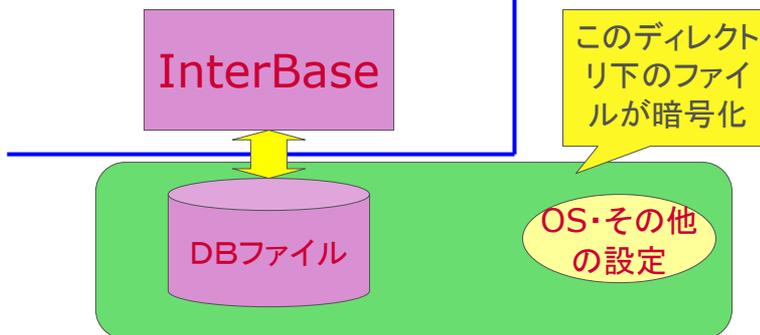
- OS自体の機能
 - Windows: 「暗号化によるデータの保護」
 - <http://www.microsoft.com/japan/windowsxp/pro/using/howto/security/encryptdata.mspx>
- TrueCrypt
 - Windows/Linux/Mac OS X
 - <http://www.truecrypt.org/>

Windowsの機能(EFS)を使う。

- 暗号化するフォルダを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- [全般] タブの [詳細設定] をクリックします。
- [内容を暗号化してデータをセキュリティで保護する] チェック ボックスをオンにします。

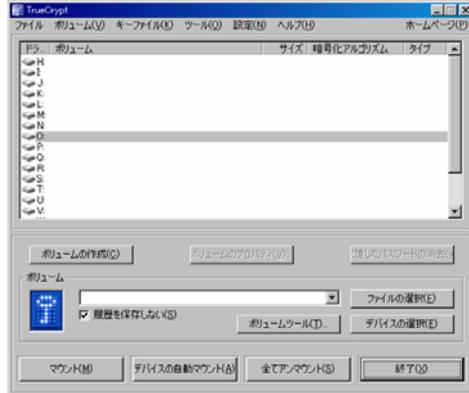


Windowsの機能(EFS)を使う



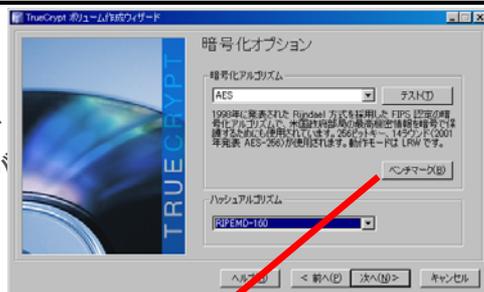
TrueCryptを使う

- 通常のOSファイルボリュームとして割り当て、マウントするイメージ。



TrueCryptを使う

- 暗号化やハッシュのアルゴリズムやサイズを選ぶことができる。
- 暗号の強度とスピードはトレードオフ。ベンチマークで確認することができる。

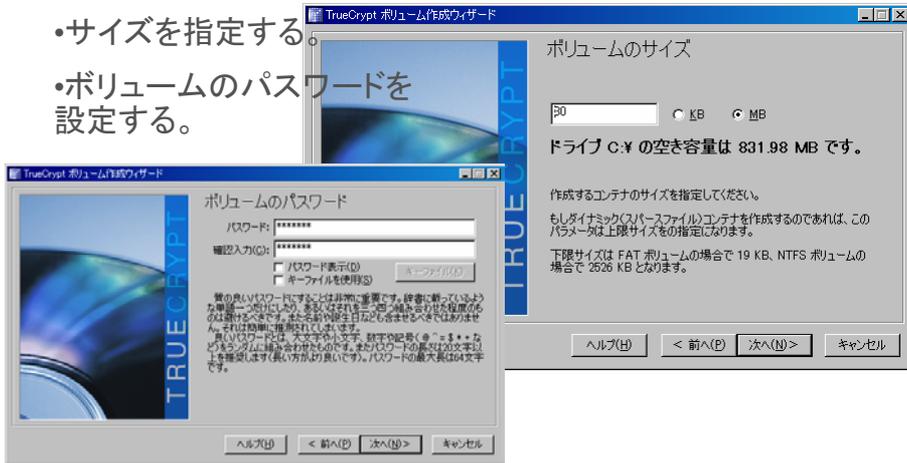


The screenshot shows the 'TrueCrypt - 暗号化アルゴリズムのベンチマーク' (TrueCrypt - Encryption Algorithm Benchmark) window. It displays a table of performance metrics for various algorithms. The table has columns for 'アルゴリズム' (Algorithm), '暗号化' (Encryption), '復号' (Decryption), and '平均' (Average). A red arrow points from the 'ベンチマーク(B)' button in the previous image to this window.

アルゴリズム	暗号化	復号	平均
不明	99.3 MB/s	6.1 MB/s	26.9 MB/s
Twofish	22.2 MB/s	18.9 MB/s	20.5 MB/s
Serpent	22.8 MB/s	18.4 MB/s	20.5 MB/s
CAST5	17.0 MB/s	17.2 MB/s	17.1 MB/s
Serpent	13.9 MB/s	12.9 MB/s	13.4 MB/s
AES-Twofish	11.4 MB/s	9.9 MB/s	11.1 MB/s
Serpent-AES	8.7 MB/s	8.3 MB/s	8.5 MB/s
Twofish-Serpent	8.8 MB/s	7.5 MB/s	8.0 MB/s
Serpent-Twofish-A.	6.7 MB/s	6.9 MB/s	6.9 MB/s
AES-Twofish-Serp.	6.4 MB/s	6.0 MB/s	6.2 MB/s
Triple DES	4.8 MB/s	4.7 MB/s	4.7 MB/s

TrueCryptを使う

- サイズを指定する。
- ボリュームのパスワードを設定する。



TrueCryptを使う & more...

